

カキの低樹高ジョイント仕立てによる 早期成園化と省力・軽労化

カキ栽培では、苗木定植から成園化までに長い年月を要し、未収益期間が長いことや、樹高が高いため、脚立を使った高所の管理作業が多く、労働負担が大きいことが問題でした。そこで、ナシで開発された早期成園化が可能な樹体ジョイント仕立てを用いて、カキに適した仕立て方に改良し、早期成園化、省力生産技術を開発しました。

☆ 技術の概要

1. カキ低樹高ジョイント仕立（図 1）は、主枝の高さ 60cm、株間 1m、列間 3m とし、長さ 2m 程度の 1 年生苗の先端を切り返さずに用いることで、定植と同時に樹体ジョイントできます。
2. 本法により、定植 3 年目から 10 a 当たり約 2t の収量が得られます（表 1）。果実品質は立ち木仕立てとの差はありません。
3. 本法は、着果位置が低く管理作業に脚立が不要ですから、摘蕾、摘果、収穫の 10a 当たり作業時間は、立ち木仕立ての約 50% に短くなります（表 2）。



図 1 カキの低樹高ジョイント仕立て

表 1 カキの仕立て法の違いと収量（平成 24-25 年の調査結果）

仕立て法	10 a 当たり 栽植本数（本）	10a 当たり換算収量(kg/10a)		
		H24	H25	累計
低樹高ジョイント	333	1,952	2,191	4,144
立ち木	111	286	913	1,199

注) 供試品種：「太秋」、平成 24 年時点で定植 3 年目（樹齢：4 年生）。

表 2 カキの仕立て法の違いと着果位置および作業性（平成 25 年の調査結果）

仕立て法	平均着果 位置 (cm)	脚立使用 割合 (%)	10a 当たり作業時間（時間）		
			摘蕾	摘果	収穫
低樹高ジョイント	130	0.0	8.0	3.6	14.3
立ち木	245	85.5	13.5	9.0	25.5

注) 1. 供試品種：「太秋」、樹齢は低樹高ジョイントが 5 年生、立ち木が高接 15 年生。

2. 作業者（男性、身長 174 cm）。

☆ 活用面での留意点

1. 低樹高化により晩霜害や獣害を受けやすくなるため、その対策が必要です。
2. 低樹高ジョイント仕立て導入の際には、開園時に棚の架設費（10 a 当たり 33～45 万円程度：施工費込み）が必要です。
3. 詳細については、福岡県農林業総合試験場（電話：092-924-2936、電子メール：nourinshi@pref.fukuoka.lg.jp）にお問い合わせください。

（果樹研究所 企画管理部 研究調整役 井原史雄）